

第18回

会員向け研修会 開催報告

12月18日(日)に愛知県名古屋市のウインクあいちにおいて、第18回「会員向け研修会」を開催しました。愛知県立大学の吉池孝一先生による講演会に、約50名の方がご参加くださいました。

講演の部 要旨

日本漢字音の源流

——とくに漢音について——

愛知県立大学 外国語学部 / 大学院国際文化研究科

教授 吉池 孝一 先生



中国の周辺では、モンゴル語、トルコ語、ウイグル語、日本語、チベット語、ビルマ語、タイ語など、さまざまな言語が話されています。これら周囲の諸言語に対して、中国から漢字や漢字の発音(漢字音)が伝わっていったのですが、本日は「それぞれの民族の言語と中国語の発音とが接触して何が起きたのか」ということについて、「米」字の発音を通じて見ていきたいと思います。

日本には呉音・漢音・唐音などの漢字音があります。「米」字の音をみてみると、呉音マイ(mai)、漢音ベイ(bei)となっており、呉音ではmから始まる音(頭子音)で、漢音ではbから始まる音で表されています。このうち漢音は、唐代の長安方言に基づく漢字音とされています。

では、日本漢音が基礎とする当時の長安方言でも、「米」字の頭子音はbだったのでしょうか。現代中国語の普通語(共通語)で「米」はmi(ピンイン)と発音され、mが頭子音になっています。次に中国諸方言での「米」字の頭子音をみてみると、山西省の一部など所々ではm+nbのmbである地方があり、ほかに台湾や福建省南部ではbになつていますが、ほとんど中国全土でmが頭子音になっています。

では、昔の長安ではどうか。結論だけ述べると、中国語音の歴史からかりとなる論文があります。それによると、山西省の一部地域では、20世紀初めには頭子音がmbであったのが、20世紀中期にはmに変化し

たとされています※。つまり、唐代の長安の頭子音mbの発音についても同様に、長安(現西安)ではmbからmに変化し、また閩南地方や台湾ではmbからbに変化した、という道筋が考えられるわけです。

次に、日本以外の中国周辺国の資料も含めて考えましょう。古代インド人による唐代の梵漢対音(サンスクリット語と中国語の対意)資料では、「娜」字(呉音ナn、漢音ダd)にサンスクリット語のdaという音を当てています。またインド人だけでなくチベット人も同様に、中国語のmやnの頭子音を持つ漢字にbやdを含む音を当てていました。

これらの例から考えると、長安の人はmbやndではなく、mやnと発音しているつもりだったのですが、日本人やインド人、チベット人はmbやnd、或いはbやdとして音声を聞き取り、bやdを含んだ音として母国に伝えてしまったものと考えられます。こういう音を出すつもりで発音しているという【音韻】(音韻観念)と、その音が客観的にはどのように聞こえるのか、という実際の【音声】とは別物なのです。唐代長安の「米」字の例でいうならば、音韻がmeiで音声がmbeiということになります。

ではこれまでもとは反対に、唐代の中国人が日本語の音に漢字を当ててはめた場合を考えましょう。その前に古代日本語の「濁音」について確認しておきます。宋・羅大経『鶴林玉露』(1248・52年)やロドリゲス『日本大文典』(1604年頃)によると、古代日本語の濁音の前には、現在とは異なり鼻音の要素があったことがわかります。さて、その鼻音から始まる濁音(つまり鼻濁音を中国人はどのように書き表したのか。森博達氏によれば、『日本書紀』(720年)は日本人の述作部と渡来した中国人の述作部に大別できます。そのうち中国人の書いた部分では、日本語の「濁音」(実際の発音では鼻濁音mb.nd)と鼻音(m.n)の両方に鼻音を当てています。言語ごとに、意味の弁別を担う発音上の要素はそれぞれ異なります。中国人にとって鼻濁音と鼻音とは同一の音韻観念で区別がなかったのです。一方日本人にとって鼻濁音と鼻音とは別の音韻観念となるので、中国人によるバ行の当て字は問題となりそうなものですが、たとえば

「米」字に呉音マイと漢音ベイがあるように、既に日本には呉音(マ行・ナ行)と漢音(バ行・ダ行)の2種の読音があったため、適宜読みかえることができ、問題にはならなかったと考えられます。

※喬余生・余躍龍2009「分水方言声母百年来的演变」『語言研究』2009年第4期、65-69頁。

漢字教育サポーター研修会レポート

今回の会員通信では、12月18日(日)10時から名古屋で開かれた、漢字教育サポーター研修会の様子を詳しくご紹介します。

今回の研修会は3〜4名ずつ3つのグループに分かれ、グループワーク形式で行われました。各グループには、サポーター依頼の情報が与えられ、まずは個人でどのような授業にするのか考えました。その後グループ内で意見を共有し、グループごとに発表しました。各グループに与えられた課題は次の通りです。

〈Aグループの課題〉

- ① 公立小学校4年生20名。
- ② 60分の1回きりの授業。
- ③ 楽しく漢字を学びながら、他の教科の学習につながる講座を希望。

〈Bグループの課題〉

- ① 中学2年生の生徒。
- ② 2時間1回の授業で漢検対策をして欲しい。
- ③ 4級合格目標だが実力は6級未満。

〈Cグループの課題〉

- ① 60歳以上の大人10名程度。
- ② 1回2時間、連続で全3回の講座。
- ③ 地域の生涯学習講座。

上記の課題は実際に到着した依頼です。依頼者側も講座内容を具体的にイメージできていない場合が多いため、依頼条件はシンプルになりがちです。そのため、与えられた少ない情報から相手や状況を想像して授業を構成することが重要となります。

各グループの発表後、立命館大学の久保裕之さんからコメントをいただきました。それでは、どのような意見が出たのか、例としてAグループの発表内容とコメントを見てみましょう。

〈Aグループ発表内容〉

● 漢字は得意か苦手かといった児童の情報や、学校の立地条件や歴史などの環境面の情報などを事前に入手しておきたい。

● 昔の金文や篆書を今の漢字と比較するのはどうか。篆書は美的センスにも関わるので、図工や美術に関連させることが出来るのではないか。

● 小学校4年生は熟語を知っている、カードを使って二字熟語を作り成り立ちを学んでもらう。歴史や理科などの他の教科と漢字を熟語によって関連付けることができる。

(例：炭素は「すみのもと」)。

〈発表に対するコメント〉

● 低学年は覚える漢字が少ないが、3年、4年あたりから覚える漢字が増える。小学4年生は漢字を嫌になる児童が増えてくる時期なので、注意が必要。

● 給食のメニューや人の名前など、子供たちに身近なものに結び付けると反応が良い。事前に訪れる学校の情報を入手しておくとうい。

● ゲームは盛り上がるが、盛り上がりすぎて収集がつかないこともある。時間管理も大切。

普段、漢字教育サポーターは個人で活動しています。依頼に対して、出す答えは十人十色。今回の研修会で、他のサポーターの方と意見を交換することで、新しい着眼点を学ばれたようです。



「研修会の様子」

漢字教育サポーター育成事業

ご要望にお応えして第6期開講決定!

漢字教育サポーター講座受講者募集

漢字の知識や面白さを伝える「漢字教育サポーター」になりませんか?

「漢字教育サポーター育成事業」とは地域での漢字教育を推進するために、より専門的な漢字の知識を持った指導者を育成するものです。受講者には立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所の協力のもと、Webを用いた全80回の通信講座と4科目のテストを配信します。講座を全て修了された方には「漢字教育サポーター」として、学校や地域団体などから講師(有償・無償)や教育ボランティア等の要望があった際には協力をお願いすることになります。

第一次応募締切日は平成29年2月28日(火)です。詳細は同封の募集要項をご覧ください。

漢字教育サポーター育成講座

受講者インタビュー

現在、漢字教育サポーターとして活躍されている中井様と山田様に、漢字教育サポーター育成講座と漢字教育サポーター活動についてのご感想や育成講座の受講を検討されている方々へのメッセージを伺いました。

中井様のご感想

漢字教育サポーターの講座には第一期の時から興味をもっていたのですが、その時点では通学のみ受講だったため、泣く泣く受講を断念しました。第二期からWEB受講の形式に代わったため、自宅で受講できるようになり嬉しかったです。

講義の中では、甲骨文・金文にはじまる中国古代文字の講義や「説問解字」に関する講義が興味深かったです。漢字の成り立ちや歴史、文化など、漢字の外延的な知識を学ぶことにより、新たな好奇心や出会いを得ることが出来ました。

サポーターとしての活動は、テレビ番組主催のイベントで採点をしたことがあり、最近では漢字ミュージアムの解説員ボランティアを始めました。まだ始めたばかりなのですが、サポーター活動を通じていろいろな年代の方々とお会いすることがとても楽しいです。今後のサポーター活動としては、学童保育のようなどころで、ゲームや漢検受検など、子ども達の個々の関心にあった活動をしてみたいと考えています。

受講を修了するためには、質・量ともに、ある程度の気概が必要だと思いますが、漢字を体系的に学ぶことが出来るので、是非楽しみながら学んで欲しいです。

※「説問解字」：中国後漢時代に許慎が作成した、最古の部首別漢字字典のこと。

山田様のご感想

漢字検定の受検に向け、勉強を続ける中で、限りなく奥深い漢字の世界に魅了されました。漢字教育サポーター育成講座が「生涯楽しめる漢字の面白さ」を深化、発展させる千載一遇のチャンスだと思ったため、受講することを決めました。普段、筆耕や習字指導の仕事をしているのですが、特に漢字学概論Ⅱの「書体の変遷」の中で、法律との関わりや異体字について学んだことで、世代間の書体に関する格差についての理解が深まり、仕事に役立っています。講座の内容では、漢字学各論Ⅱ-12石井勲先生の『これからの漢字教育』の中で、「漢字を教える」教育ではなく、「漢字で教える」教育という言葉がとても印象的でした。現在、講座の修了式後の交流会がきっかけで、毎月十余名の仲間たちと、「学校で教わらない漢字の世界」について勉強会を続けています。よき指導者、心通う仲間との時間は、当講座で得た思わぬ貴重な宝物と、ありがたく感謝しています。受講してから4年が経過した今だからこそ、様々な発見があると実感しています。

サポーターとしてはテレビ番組で漢字ゲームの判定員として出演したり、漢字ミュージアムの解説員をしたりしています。子どもたちが漢字に興味を示し、大人が漢字の面白さを再発見するのを目の当たりにした時に、サポーターとしてのやりがいを感じます。今後はサポーター活動を通じて、異世代が漢字ゲームなどで漢字に親しみながら交流を深め、漢字文化が更に浸透してくれたら嬉しいです。このWeb講座は各分野のエキスパートの講義を、期間中いつでも繰り返し受けられるので、またとない好機だと思います。広くて深い漢字の海へいざ出航!漢字の世界を楽しんでください。

漢字クイズ

クイズ作成者 群馬県 関口さん



問題

4つの漢字のうち、
一つだけ部首が異なる漢字があります。
よく考えて、探してみてください。

※解答は7ページ。
※部首は『漢検要覧』2～10級対応収録の「部首一覧表と部首別の常用漢字」による。

- | | | | |
|----|------------------------|----|--------------------------|
| 10 | 戸
(とだれ)・・・肩、戻、房、扇 | 20 | 艹
(くさかんむり)・・・蒸、葬、蓄、墓 |
| 9 | 宀
(つかんむり)・・・営、単、巢、劳 | 19 | 米
(こめへん)・・・糖、精、料、粉 |
| 8 | 彡
(さんづくり)・・・形、彩、杉、影 | 18 | 禾
(のぎへん)・・・私、秋、科、和 |
| 7 | 宀
(まだれ)・・・庫、応、床、庁 | 17 | 灬
(れんが・れつか)・・・黙、点、然、焦 |
| 6 | 宀
(うかんむり)・・・安、字、宇、宅 | 16 | 殳
(るまた)・・・殺、殴、段、役 |
| 5 | 口
(くち)・・・古、舌、否、吉 | 15 | 欠
(あくび)・・・歌、炊、欲、欧 |
| 4 | 又
(また)・・・奴、取、収、双 | 14 | 木
(きへん)・・・枯、析、検、相 |
| 3 | 冫
(わかんむり)・・・写、冗、軍、冠 | 13 | 木
(き)・・・染、架、築、柔 |
| 2 | 冫
(りつとう)・・・刷、刊、判、側 | 12 | 攴
(のぶん)・・・故、放、政、枚 |
| 1 | 厂
(がんだれ)・・・灰、厚、原、厘 | 11 | 心
(こころ)・・・念、窓、忌、怠 |

例

問 イ(にんべん)・・・仕、化、体、例
 ▶ 3つはイ(にんべん)を部首にもつ漢字。
 1つは、それ以外の部首を持つ漢字です。

解 化【部首・・・匕(ひ)】

漢字同好会からのお知らせ

全国の漢字同好会の情報は、漢検ホームページからもご覧になれます。
<http://www.kanken.or.jp/project/education/associations.html>

北海道漢字同好会

漢字塾
日 ● 平成29年2月18日(土)
時 ● 13時～16時
場 ● かでる2・7(710号室)
内 ● 札幌市中央区北2条西7丁目
内容 ● 1級・準1級・2級等のグループに分かれて学習します。漢検対策がおもな目的です。
参加費 ● 300円

漢遊会
日 ● 平成29年3月18日(土)
時 ● 13時～16時
場 ● かでる2・7(940号室)
内 ● 札幌市中央区北2条西7丁目
内容 ● 第15回「力だめし200問」
参加費 ● 300円
申込方法 ● 初めて参加される方は前日までに事務局へご連絡ください
お問い合わせ ● 北海道漢字同好会 事務局
TEL/FAX 011・6911・5123
Eメール kanji0764@nifty.com

新潟漢字同好会

平成29年度通常総会及び講演会
日 ● 平成29年4月22日(土) 10時～12時
場 ● 万代市民会館(新潟市)
内 ● 総会・講演会
講師 ● 会員 清水康之氏
テーマ ● 「漢字にまつわるエトセトラ」
参加費 ● 無料
申込方法 ● 会員は返信ハガキにて一般の方は、電話でお申し込み下さい。
申込締切日 ● 平成29年4月15日まで
お問い合わせ ● 事務局 太田 090・8640・8761

福島県漢字同好会

2月例会
日 ● 平成29年2月12日(日) 14時～
場 ● 郡山中央公民館 第1講義室
内容 ● 学習会
テーマ ● 白川文字學による『字源』解説 その1
講師 ● 八重樫 一氏
3月例会
日 ● 平成29年3月5日(日) 14時～
場 ● 郡山中央公民館 第2講義室
内容 ● 学習会
テーマ ● 白川文字學による『字源』解説 その2
講師 ● 八重樫 一氏
お問い合わせ ● 福島県漢字同好会 024・923・1078

石川漢字友の会

講演会
日 ● 平成29年2月26日(日) 13時30分～15時
場 ● 北國新聞会館10F108教室(金沢市南町2・1)
テーマ ● 「漢字の成り立ち」
内容 ● 篆字・篆刻の大家による「漢字の起源」などについて
講師 ● 北室南苑先生
(北枝篆会主宰/魯山人寓居跡いろは草庵館長)
参加費 ● 無料
申込締切日 ● 平成29年2月10日
講演&茶会
日 ● 平成29年3月19日(日) 13時30分～15時頃
場 ● 「宗瑞庵茶室」(金沢市池田町3・49大島宅)
テーマ ● 「書・花・茶の心得」
内容 ● 実際の茶会研修と講話
講師 ● 大島宗瑞先生(裏千家茶道師匠)
参加費 ● 無料
申込締切日 ● 平成29年3月10日

総会&講演会
日 ● 平成29年4月16日(日)
総会は13時30分～14時頃、講演会は、14時30分～16時
総会会場 ● 北國新聞会館10F108教室(金沢市南町2・1)
講演会場 ● 「徳田秋聲記念館」(金沢市東山1・19・1)
テーマ ● 「金沢の三文豪」について
内容 ● 講演会の後、記念館を参観・見学
講師 ● 上田正行先生
(金沢文化振興財団・徳田秋聲記念館館長)
参加費 ● 無料
申込締切日 ● 平成29年4月5日
申込方法 ● ハガキ、FAX、またはEメールでお申込みください。
(電話での連絡は、ご遠慮願います。)
お問い合わせ ● 〒920・0919、金沢市南町2・1、
北國新聞文化センター気付
FAX 076・260・3427
Eメール ishikawa-kanji@po5.nsk.ne.jp



初めて一級に合格しました!

漢検の最高峰一級に初めて合格した会員の喜びの声を紹介します。

27年第三回の検定試験にて9度目のチャレンジでやっと合格致しました。市販の問題集数冊分を何度も繰り返し試験へ臨んで参りましたが、出会ったことのない故事・諺や難読熟語等が次々と登場し、その度に準備不足を思い知らされ、あと数点がどうしても届きませんでした。

何度か挫折そうになりましたが、勉強姿勢と詰め甘さを猛省しまして、漢字辞典と真剣に向き合う基本の毎日を心がけることに専念しました。果てしない忍耐や不安を思う傍ら、新しい漢字を発見する瞬間はとても楽しく、あれもこれも覚えたい強い意欲も湧き、不思議と焦る気持ちはなくまりました。分厚いノートを何冊か拵え、辞典や参考書で調べたページを印し、学習日時の履歴を残す癖もつけることで記憶への定着にこだわりました。辞典への書き込みやマージングも遠慮せず行い、トイレの中は漢字だらけになりました。週刊誌のスクープ記事に難読漢字を修飾させて関連づけて覚えるコツも発見しました。夢中な日々の積み重ねが漸く「漢検一級合格」という証^{あか}で体現された瞬間は至福の喜びでした。ぎりぎりの164点ではありましたが、更なる目標の高みが今の私の心の支えになっています。

宮城県 守屋さん

ノートに「書く」、トイレの掲示を「見る」、だけでなく、記事に難読漢字を修飾させる方法など、ご自身で学習方法を編み出されたんですね。今後は漢字の知識だけでなく、学習方法のコツも周りの人々に提供していただけると嬉しいですね。

病院の売店で手にした一冊の漢字パズル誌が、私の人生を変えたのです。模擬アストコーナーに触発され、二十五年第一回検定で準一級一発合格。だが、一級は見たこともない漢字のオンパレード。地道に基礎を固めるべく、図書館で漢字に関する文献を読み捲り問題集を買い集め、過去問を繰り返し読み書きできるようにしました。二十

六年第二回、二十七年第三回と連続五回目の挑戦で一級初合格しました。私の場合、問題集を十度十回解いたところで本番でした。一級合格の山巔の景色は素晴らしい。是非一人でも多くの人に味わってほしい。人生観、世界観が変わります。漢字を学ぶは、人生を学ぶこと。人類の叡智に触れるタイムマシンの鍵を入手したようなものです。衣食住、動植物、人間の生活、文化、思想すべてが漢字で表現できるのです。特に日本人の先人たちは、苦労しながら漢字一文字一文字に大和言葉や当てはめ、意味づけをして日本仕様に作りあげてきたのです。明治期には西洋の学術用語を漢訳し、中国に逆輸出もしています。漢字に託された先人の思いや願いを理解し、後世に継承していきたい。現在私は、二つの合唱団と地域史研究会に所属し、古今東西の文化を堪能しています。

山形県 土田さん

「漢字を学ぶことは、人類の叡智に触れるタイムマシンの鍵を入手したようなもの」とはとても美しい表現ですね。漢字にあまり興味がない人や、漢字に対し苦手意識を感じている人にも是非聞いてもらいたいお話だと思います。

平成28年度第二回の検定で、170点で合格しました。平成27年度第三回の検定で準一級に合格し、平成28年度第一回の検定を受けようと考えましたが、一級の壁は私の予想を遙かに上回るもので、約3か月の勉強では足りないと思い、第2回の検定まで約8ヶ月勉強し、1回目の挑戦で合格しました。

教材は平成28年度版の頻出度順漢字検定ですが、これだけでは駄目だと思い、約千の四字熟語や明鏡国語辞典、広辞苑からよく出題される熟語(その熟語の意味やそれに近い対義語・類義語や、よく出る同音異義語をそれぞれノートにまとめたり、問題集以外から出る故事・諺をプリントにまとめたり、漢和辞典を見ながら覚えたり、過去問5回分の模擬試験を解いたり、自分で小テストをたくさん作り、作って数ヶ月後にその小テストを解いて覚えました。作ったノートは全部で5冊です。

これで楽しく勉強ができるようになりましたが、1回で合格するのは調べる約3%とかなり低めで何度も挑戦するのだろうと不安でしたが、何度も書いて覚えたため、その努力が実ったせいか無事合格し、喜びや驚きでいっぱいでした。これからは様々な漢字の知識を身に付けていきたいと思えます。

岡山県 江川さん

ノートやプリントに纏めたり、ご自身で作成された小テストを数か月後に解いたりすることで、繰り返し記憶に刷り込んでいったんですね。楽しみながら勉強に取り組まれ、1回目の挑戦での合格、とても素晴らしいですね!

平成二十八年度第二回の検定で合格しました。二回目の挑戦で合格です。一回目は一年前に受験し、百四十二点で不合格でした。七割正解でしたので、もう一踏ん張りすれば合格できると思います、再挑戦しました。その結果百六十九点で合格です。合格通知を見たときは大いに感動し、心の中で何度も雄叫びを上げました。

約三年前から勉強を始めましたが、漢字の知識が乏しかったので、初心に帰るといふ気持ちで十級から始めました。九級、八級へと順番に準一級まで約一年かけて勉強した後、準一級を受検して二発合格しました。次は「二級合格に向けて邁進！」という気持ちで隙間時間を使って二年間勉強しました。一冊の問題集を中心に反復演習しながら、別の二種類の問題集で不足を補いました。更に、七分の過去問題集を反復演習、漢検四字熟語辞典の一級の熟語を全て暗記しました。また、新聞記事より準一級相当以上の漢字を書き留めて暗記、難読漢字の市販本も二冊購入して理解と暗記に努めました。一方、常に、謙虚な姿勢で勉強することも心がけました。これにより、一級に合格出来ました。まだまだ不堪です。今後は漢字の知識をより深め、「漢字博士」になることが目標です。

神奈川県 高田さん

一級に合格されてもなお、「不堪」と仰るその姿勢、素晴らしい向上心ですね。是非、「漢字博士」への足掛かりとして、漢字教育サポーター育成講座の受講をご検討いただければと思います。

数種類の問題集で、四字熟語、対義語・類義語を重点的に勉強しました。わからない熟語や何度も間違え問題については、アイウエオ順に整理した自分用ノートを作成しました。2か月間趣味の読書は中断し、また、新聞もあまり読まず、ほぼ正月返上で取り組みました。

検定試験直後は不合格と思い、答え合わせをするのも嫌(結局せず)で、しばらく漢字と全く向き合っていないのですが、漢検から相応の大きさの封筒が届いたときは、合格証書と思い、無我夢中(少々おおげさ)で封筒を破って中身を取り出しまして、思わず、拳を天に突き上げました。本当に嬉しかったです。

点数は164点のぎりぎり、また、比較的合格率も高かった回のように、運が良かったです。準一級は平成10年に合格していたので、長い道のりでした。

今後、おそらく検定試験を受けることは無いと思いますが、会員登録いたしましたので、折角の機会として、研修会に一度は参加してみたいです。

山口県 濱田さん

準一級合格の平成10年から数えると、20年弱。合格本当におめでとうございます。ネットワーキング会員の中には、同じように長年努力されて一級に合格された方が沢山いらっしゃいます。研修会にご参加いただける際には、是非、会員の皆様との交流も楽しんでいただければ幸いです。

合格された皆様、本当におめでとうございます！

初合格を目指している方も、合格の暁にはぜひ感動の声をお寄せください。

投稿の方法は P.8 をご覧ください。

漢字クイズ

解答

【 〃 】内はその漢字の部首

- 1 灰【火(ひ)】
- 2 側【イ(にんべん)】
- 3 軍【車(くるま)】
- 4 奴【女(おんなへん)】
- 5 舌【舌(した)】
- 6 字【子(こ)】
- 7 忪【心(こころ)】
- 8 杉【木(きへん)】
- 9 労【力(ちから)】
- 10 肩【肉(にく)】
- 11 窓【穴(あなかんむり)】
- 12 枚【木(きへん)】
- 13 築【〃(たけかんむり)】
- 14 相【目(め)】
- 15 炊【火(ひへん)】
- 16 役【イ(ぎょうにんべん)】
- 17 黙【黒(くろ)】
- 18 和【口(くち)】
- 19 料【斗(とます)】
- 20 墓【土(つち)】

会員通信への 投稿募集中!

会員通信を充実させるため、会員の皆様からの積極的な投稿をお待ちしています。

● **常時募集** (掲載いたしかなる場合もごまいます)

一級に初めて合格しました!

この一年で、最難関の一級に初めて合格した方の喜びの声や、合格のポイントを紹介します。以下の項目に沿って原稿をお書きください。

- 項目 ● ① 合格したか
 ② 何回目の挑戦での合格だったか
 ③ 合格に向けて工夫したこと (勉強方法等、励みになったこと)
 ④ 合格したときの気持ち・感想
 ⑤ 今後の目標
- 対象 ● 平成27年度第3回(2月)〜平成28年度第2回(11月)の検定で初めて一級に合格された方
 字数 ● 項目①〜⑤までで500字以内

漢字・日本語に関するお薦めの書籍紹介

書名、著者名、出版社名、発行年を明記して、お薦めの理由を250字以内にまとめてお送りください。

「漢字を学ぶ仲間」募集板

「同じ県内で一緒に勉強できる仲間がいらないかな?」といった悩みをお持ちの方はいらっしゃいませんか? 研修会内の交流会に参加できない会員の皆さまのご要望に応え、漢字を学ぶ仲間の募集板を会員通信内に開設します。

募集内容や自己紹介などと一緒に、公開してもよい連絡先(ペンネーム可)を明記の上、お送りください。

例 ● 京都市内で漢字の勉強会をしませんか? 一級合格に向けて勉強方法などを共有して高め合えればと思います。

漢検花子 60才 京都市在住 Eメール: kanken-hanako@xxx.jp

※掲載しても差し支えないか投稿内容を必ず確認の上お送りください。

漢字に関するパズル・クイズ

子供からお年寄りまで楽しめる面白い漢字パズルを募集します。問題と解答を必ずセットにしてご投稿ください。(未発表作品に限ります。)

例 ● 漢字クロスワードパズル、子供向け漢字クイズ(学習漢字のみ使用)、難読漢字パズル等

投稿方法

原稿とともに会員番号、氏名(ペンネームで掲載希望の場合はペンネームも添えること)、電話番号を明記し、郵便・FAX・Eメールでお送りください。

※Eメールの場合は原稿書式を「Microsoft Word」もしくは「一太郎」とし、添付ファイルでお送りください。

締切日

2017年4月14日(金) (協会必着)

投稿先

〒605-0074
 京都市東山区祇園町南側551番地
 公益財団法人 日本漢字能力検定協会
 漢検生涯学習ネットワーク担当

FAX 075-532-1110

Eメール lifelong@kanken.or.jp

すべての投稿を掲載できるわけではありません。原稿はこちらで一部割愛・校正させていただきます。

日本漢字能力検定 平成29(2017)年度 個人受検 検定日程

	検定日	申込受付開始日	申込締切日(協会必着)
第1回	平成29年 6月18日(日)	平成29年 3月1日(水)	平成29年 5月18日(木)
		※ただし、書店での申込受付は平成29年5月15日(月)まで。 書店での支払い後、願書の郵送は平成29年5月18日(木)協会必着	
第2回	平成29年 10月15日(日)	平成29年 7月1日(土)	平成29年 9月15日(金)
		※ただし、書店での申込受付は平成29年9月12日(火)まで。 書店での支払い後、願書の郵送は平成29年9月15日(金)協会必着	
第3回	平成30年 2月 4日(日)	平成29年 11月1日(水)	平成29年 12月27日(水) 【インターネット・コンビニ】 平成30年 1月 5日(金)
		※ただし、書店での申込受付は平成29年12月22日(金)まで。 書店での支払い後、願書の郵送は平成29年12月27日(水)協会必着	

● 申込締切日(協会必着)を厳守してください。 ● 申込締切日以後に願書が到着した場合や、検定料の支払期限が過ぎた場合は受け付けできません。



公益財団法人 **日本漢字能力検定協会** 本部 〒605-0074 京都市東山区祇園町南側551番地
 ※「漢字検定」「漢検」は登録商標です。無断転載・コピー不可。

インターネットで漢検情報を!!

http://www.kanken.or.jp/

漢検 検索



0120-509-315

月〜金9:00〜17:00(祝日・お盆・年末年始を除く)
 ※検定日とその前日の土・日は窓口を開設
 ※検定日・申込締切日は9:00〜18:00

